

2021 年度 個人研究実績・成果報告書

2022 年 2 月 20 日

所属	人間社会学部	職名	専任講師	氏名	NGUYEN THUY
研究課題	ベトナム農村における女性の所得向上と農村工業化の役割				
研究キーワード	ベトナム、ジェンダー格差、農村貧困、農村工業化、階層移動	当年度計画に対する達成度	3.概ね順調に研究が進展し、一定の成果を達成したが、一部に遅れ等が発生した		
関連するSDGs項目	1. 貧困をなくそう	5. ジェンダー平等を実現しよう	8. 働きがいも経済成長も	10. 人や国の不平等をなくそう	
<p>1. 研究成果の概要</p> <p>本研究の目的はベトナムの農村経済に着目し、農村部の女性が如何にして貧困から脱却し、経済階層を遷移しているのか明らかにすることである。新型コロナウイルスの感染拡大が依然として続く中、ベトナムを訪問しての調査とはならなかったが、ベトナム農村の貧困問題に対して、ベトナム政府は現在に至るまでどのような対応をとってきたのか整理し、今後の研究においてどの部分に焦点をあてるべきか見出すことができた。すなわち現在のベトナムでは農村貧困、格差問題が顕著になっており、とりわけ山岳部において貧困が厳しくなっている。ベトナム政府は農村発展と貧困・格差の是正、少数民族の支援を国家目標として掲げており、これはベトナムの経済成長の恩恵を主として山岳部に居住する少数民族籍の人々が享受できてないことに起因しており、とりわけ少数民族籍の女性がいかにして貧困から脱却することができるのか、その点を議論することが重要となることがわかった。ゆえに今後は少数民族の人々の価値観などを理解する異文化理解の視点が極めて肝要であり、引き続き本研究テーマの研究を続けていくが、異文化理解という観点を今後は含めた研究を進めていく。</p> <p>2. 著書・論文・学会発表等（査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載）</p> <p>【論文（査読あり）】</p> <p>なし</p> <p>論文名、著者名、共著・単著、掲載誌名、巻、最初と最後の頁、発表年 等</p> <p>【著書・論文（査読なし）】</p> <p>1. 論文名： ベトナムにおける貧困削減の進展と今後の課題 著者名： NGUYEN THUY 単著 掲載誌名：千葉商大紀要 59 巻 2 号 215・217 ページ 発行年： 2021-11-30 出版者： 千葉商科大学国府台学会</p> <p>2. 論文名：貧困問題から格差問題へ ―ベトナムの貧困・格差政策の動向― 著者名： NGUYEN THUY 単著 掲載誌名：千葉商大紀要 59 巻 3 号 発行年： 2022 年 3 月予定</p>					

3. 訳書

訳書名： ベトナム統計年鑑 2019

訳者名： NGUYEN THI THANH THUY (グエン ティ タン トウイ) 単訳

原著者名： General Statistics Office

原書名： Statistical Yearbook of Viet Nam 2019

発行所： ビスタ ピー・エス

発行年月： 2021 年 5 月

【学会発表等】

1. 国府台学会研究会報告 (2021 年度第 2 回)

3. 主な経費

研究目的で PC やプリンター、インク、メモ리카ード、学会費などに使用した。

4. その他の特筆すべき事項 (表彰、研究資金の受入状況等)

1. 日本ベトナム研究者会議入会：「日本ベトナム研究者会議」は日本のベトナム研究者が集う学会の一つである。会員の先生方と研究情報を共有し、ネットワーキングを図ることに努めた。
2. 東南アジア学会、アジア政経学会、異文化間教育学会、ベトナム協会会員として、研究会、会議などに適宜参加した。
3. オンラインにて開催された第 2 回 Vietnam Summit in Japan 2021 に参加し、質疑などで貢献した。(2021 年 11 月 20 日、21 日、在日ベトナム大使館と NIC (Vietnam National Innovation Center) が共催)。ベトナム国内からは、計画投資省、農業農村開発省、保健省、科学技術省の幹部が参加し、ベトナムのメディアの多くがこの会合の様子を取りあげた。
4. 在日ベトナム学生青年協会 (VYSA) の会議に参加した。(在日ベトナムコミュニティの状況と課題等の研究の目的で参加した)
5. 東京ベトナム語学校 (TVS) の活動に参加した。(ベトナムにルーツを持つ日本在住の子供たちの現況と課題に関する調査の目的で参加した)